



▲昭和30年代の木島玩具店と写真館（右）

# あげ・まげ・じげじま

## 第7回 まちの歴史をフィルムに収めて70年、木島写真館

戦後、根雨のまちに写真館と玩具店を開いておよそ70年。

その間、木島写真館は、さまざまなまちの歴史や移り変わりをフィルムに収めてきました。

青年団での活動や運動会など、当時のまちの様子を知る

木島千隼さん（根雨）のお話を、昔の写真を交えながら紹介します。

韓国への移住と  
終戦を迎えるまで

私は、大正11年3月生まれの93歳です。私の父は伯耆町の出身でしたが、母方に子どもがいなかったため、養子に行き木島姓になりました。

その後、父は朝鮮総督府の慶尚北道（現在の韓国）で獣医になりました。当時の人口は20万人、日本人だけでも6万人はいました。私は、小学校・中学校をそこで過ごし、昭和17年に写真の勉強で1年間東京に戻ってきました。その時に徴兵され、陸軍の騎馬隊に配属、終戦を迎えました。

写真館をはじめたきっかけ

昭和20年の12月に父と日本へ帰国。その際に母の実家があるという理由で根雨に住む



▲思い出や当手を懐かしみながら語る木島さん

ことになりました。

当時は、フィルムが配給制だったため、商売としては成り立たなかったのですが、偶然名古屋にいた知り合いから、不要になったフィルムなどを大量に譲り受けました。

そうしたところ、写真を撮りたくても撮れなかった人

たちから依頼が殺到し、日野郡中を回りました。写真の多くは、入学や卒業、結婚写真などで、その頃はまだ店はなかったため、出張撮影ばかりでした。昭和21年から24年の事です。

それから、昭和24年に現在の場所を紹介され、玩具店と



▲商工会の運動会で見られた仮装行列（旧根雨小学校の校舎を背景に）



▲バイク好きの仲間たちで撮影した1枚



▲多くの町民であふれる運動会(昭和30年代)



▶根雨のまちなかに立つ酢酸工場（中央に煙突）



▶後谷の銅山（左上および中央に小屋が見える）

写真館を始めることになりました。  
にぎわいを見せた  
終戦直後の根雨のまち

私が店を始めたころは、空き家がないほどすき間なく店が並んでいました。銭湯やビリヤード場などもあり、終戦直後で大変にぎわってましたね。

猟友会の活動も活発でしたし、後谷の銅山で働いている人もたくさんいて、人であふれかえってました。

### 昭和20、30年代の文化活動

自動車が出回るまでは、オートバイやオート三輪が主流で、若者など多くの人が乗っていました。バイク好きやその仲間たちで、毎年一回旅行を兼ねた遠出し、広島

県三次市くらいまで行ったこともありました。

また、根雨公会堂がみんなの集まる場所でした。まちなかに映画館ができるまでは、公会堂で映画会が開かれていましたし、根雨洋裁学校のフアッションショーも行われていました。

そのころは木山義喬さんが私の店のスタジオを使って絵画教室を開いていて、私も仲間たちと遅くまでデッサンの練習をしたことがあります。

### 盛り上がった青年会と運動会

私が20〜30代のころは、『中町青年団』という名前です。いろんな活動をしていました。例えば、町民運動会の出し物を仲間たちと考えて、演出などをしていました。

◆4月から写真館で、木島さんが昭和の時代を中心に撮影した200点を超える懐かし写真を集めたギャラリーを開設されます。どうぞお出かけください。

### 根雨のまちなかについて

当時は、旧根雨小学校のグラウンドで商工会の運動会が開かれ、一般の人も参加して大変にぎやかでした。私も含め、みんながいろんな仮装をして盛り上げていました。店がたくさんあったので景品が豪華だったり、親睦会が夜遅くまで延々と繰り広げられたりと、年1回の大行事だったことが印象に残っています。

私の若いころと比べ、根雨のまちなかも店や人が減っていき、寂しくなりました。一番残念なのは、人の交流がなくなってきたことです。私が当時の様子を伝えることで、少しでも今の若い人たちにまち全体を盛り上げてほしいと願っています。

### 「じげじまん」の語り手を募集しています

昔の行事や地域のしきたり、田植え歌やわらべ唄などを語っていた人があれば伺います。伺った内容は、町広報紙に掲載するほか、録音や録画して保存します。若い世代に話を語り継いでいきませんか。詳しくは町図書館（電話72・1300）まで。